

ニューズレター 雪氷北信越

No. 12 平成2年3月19日
日本雪氷学会北信越支部発行

目次

第3回総会および研究発表会・製品発表検討会の案内／地区講演会・見学会・講習会・学習会の案内・報告／雪氷北信越5号の予定／IGSニュース

総 会

総会 & 研究・製品発表会

第3回北信越支部総会および研究発表会・製品発表検討会のお知らせ

日時： 平成2年6月2日（土） 10:30～17:30
場所： 長岡技術科学大学 A 講義室（JR長岡駅よりバス30分）
〒940-21 長岡市上富岡町1603-1（電話0258-46-6000）
プログラム： 10:30～12:00 研究発表会
12:45～13:30 総会
13:45～17:30 研究発表会・製品発表検討会
17:30～ 懇親会（長岡技術科学大学第3食堂会費3000円）

※研究発表会・製品発表検討会にて発表を申し込まれる方は、予稿集の原稿の執筆（研究発表1ページ、製品発表2ページ）をお願いします。下記の申し込み用紙により、研究発表会・製品発表検討会の種別を明記の上事務局まで申し込み下さい。なお、予稿集原稿の締切は、5月8日（火）必着となっております。

申し込み締切： 4月16日（月）必着
送付・問い合わせ先：長岡技術科学大学建設系 小池俊雄
〒940-21 長岡市上富岡町1603-1（電話0258-46-6000, FAX 0258-47-0019）

研究発表会・製品発表検討会申込用紙

氏名（所属略記、発表者に○）	題 目	
送付先 〒	電話	
発表種別（どちらかに○）	1. 研究発表会	2. 製品発表検討会

講演会

富山地区講演会のご案内

「雪氷コアの研究から北極圏カナダの気候変動を探る」
- Ice Core Studies of Climate in Arctic Canada -

講師：スタン・バターソン博士（バターソン地球物理研究所所長）
日時：1990年4月2日（月） 10:00～12:00
場所：富山大学理学部2号館202号教室，富山市五福3190

雪氷学の教科書として世界中で使われている「The Physics of Glaciers」の著者であるバターソン博士が国際会議出席のため来日されます。この機会を利用して上記の講演会を行う予定です。講演は英語で行われますが同時通訳が付く予定ですので、皆様多数の御来聴をお願いします。なお、会場準備の都合上、出席希望者は、是非とも下記問い合わせ先までお知らせ下さるようお願いします。

問合せ先：富山大学理学部 庄子 仁（0764-41-1271 内線2315）

見学会

富山地区見学会&講習会のご案内

立山連峰における除雪見学
と積雪断面観測

立山連峰は日本でも第一級の積雪地帯で、春先の積雪深は多いところでは20mにも及びます。立山黒部アルペンルートをかかえる富山県道路公社では毎年4月の後半開通をめざしてこの膨大な雪の除雪作業を行っています。今回はこの除雪を見学し、雪の壁を利用した積雪断面観測を行う予定です。

日時：1990年4月20日前後の1日間

場所：立山連峰，弥陀が原～室堂周辺

定員：15名程度

参加費：5000円程度

問い合わせ及び申し込み：電話またはFAXにて下記で受け付けます。

富山大学理学部 川田邦夫（TEL 0764-41-1271）

黒部市吉田科学館 飯田 肇（TEL 0765-57-0610 FAX 0765-57-0630）

日程については、除雪の進行状況に依存するため、現在のところ未定ですが、4月5日（木）までに決定します。日程決定以降、下記までお問い合わせの上申し込み下さい。また、日程的に可能性のある方は事前に蓄ってご応募下さっても結構です。その場合は、日程について担当よりご連絡します。その上での応募取り消しは結構です。

見学会

新潟地区見学会の報告

上記見学会が2月2日開催され、25名参加という盛況のもと、農林水産省北陸農業試験場と建設省土木研究所新潟試験所を見学した。北陸農試では積雪観測室と地下トンネル、雪下作物や雪腐れ病の実験室を、土研新潟試験所では降雪予測と路面圧雪状況自動測定機、雪観測の地下トンネル、そして雪崩の実験を見せてもらった。特に雪崩の実験は低温室での実験と、大型の雪崩実験装置による実験が圧巻であった。両試験研究機関の皆様にはこの紙面を借りて本見学会へのご協力を感謝します。(早川幹事長 記)

学習会

新潟地区第5回学習会の報告

平成2年2月24日(土)10:00~12:00、長岡工業高等学校において、長岡技術科学大学の梅村晃由先生による「屋根雪処理技術の現状と考え方」と題した学習会が開催されました。4年続きの暖冬に加えて当日は雨模様であったためか、参加者は20名と少なかった。しかし、昨年刊行された「雪処理技術調査研究報告」を参加者全員がテキストとして見ながら、この報告書の全体を分かり易く説明していただき、活発な質疑応答もあって有意義な学習会となりました。今回は時間の関係から概論的な説明が主でしたので、次には報告書を分担執筆された方から、より詳しい各論をお話して頂けたらと考えています。(和泉幹事 記)

講習会

新潟地区講習会の報告

4年連続の豪雪で実施が危ぶまれたが、長岡近郊の雪深い地点を実習地として選び、2年連続の中止を回避できた。実施結果は下記のとおりである。

年月日：1990年 2月24日(土)、12時40分~17時

会 場：長岡工業高校物理教室

実習地：古志郡山古志村虫亀、虫亀闘牛場及び集落センター

講 師：遠藤八十一氏(農水省森林総研)、和泉 薫氏(新潟大学災害研)

五十嵐高志氏(長岡雪氷防災研)、佐藤和秀氏(長岡高専)

講習内容：積雪の断面観測と雪の含水率の測定

参加者：18名(会員6名、学生9名、非会員3名)

当日は終日小雨の降る悪天候であったが、長岡市の中心部から15km、標高300m余りの実習地点は107cmの積雪に恵まれ、講師諸氏の献身的で懇切丁寧な指導の内に無事終了することができた。尚、修了証は後日参加者へ郵送で交付された。参加者からの感想などをお聞かせください。(田村 記)

機関誌 『雪氷北信越5号』発行のお知らせと自由投稿文・広告の募集

北信越支部編集委員会（早川委員長）では、平成2年5月31日に『雪氷北信越5号』の発行を予定しております。つきましては、下記の通り、随筆・評論的な自由投稿文を募集致しますので、奮って御投稿下さい。また、同誌に掲載する広告を募集致します。『雪氷北信越2号』74頁を御参照の上、ご連絡下さい。

1. 締切：平成元年5月8日（月）必着
2. 字数：3000字程度（用紙は自由）
3. 問合先：〒940-21 長岡市上富岡町1603-1
長岡技術科学大学建設系 小池俊雄（0258-46-5000、内線6124）

I G S

国際雪氷学会長岡市開催、動き出す

既に本年度第2回理事・幹事合同会議の報告としてお知らせしたように（ニューズレターNo.9）、1992年9月14-19日に長岡市産業交流会館において国際雪氷学会（International Glaciological Society 略称IGS）のシンポジウムが「雪と雪に関する諸問題」をメインテーマに、IGS、日本雪氷学会、長岡市の共催のもとで開催される運びとなりました。この開催にむけて準備委員会が発足し、第一回会合が長岡市において平成1年1月19日に開催され、具体的な日程、シンポジウムのテーマなどが審議されました。このシンポジウムの案内は英国にあるIGS事務局から5月に発行されますが、準備委員会の名簿とテーマは次のとおりです。

準備委員会： 中村 勉（委員長、長岡雪氷防災実験研究所長）、早川典生（長岡技術科学大学教授）、梅村晃由（長岡技術科学大学教授）、小林俊一（新潟大学教授）、対馬勝年（富山大学教授）、中尾正義（長岡雪氷防災実験研究所第2研究室長）、平野清明（新潟県克雪・地域振興課長）、山田勉（長岡市助役）、青木 彰（長岡市企画調整部長）。

シンポジウムテーマ： 雪の物理学、積雪の分布と変化、雪崩、着氷雪、降雪、融除排雪、雪に関する社会的な問題、気候における雪の役割、雪の摩擦、海水上の雪（エネルギーと質量の収支における役割）、雪と氷の利用。

尚、準備委員会では本シンポジウムのメインテーマを表す案敵なシンボルマークを募集しています。4月14日締切で当支部までお寄せください。参考までに1984年の札幌IGSシンポジウム（左側）と、1991年中国での山地氷河学シンポジウム（右側）のシンボルマークを下に示します。なお採用となったデザインには準備委員会において適当なお礼をすることを考えています。

